

ペアレントスケッチャーマニュアル
保育にあたっての基本姿勢に関する事項

目次

はじめに	3
保育を始める前に	4
1 保育の計画と評価	4
2 保育の記録報告書の作成	5
3 保育の内容	5
(1)子どもの発達過程	5
1 おおむね 6 か月未満	6
2 おおむね 6 か月から 1 歳 3 か月未満	6
3 おおむね 1 歳 3 か月から 2 歳未満	7
4 おおむね 2 歳	7
5 おおむね 3 歳	8
6 おおむね 4 歳	8
7 おおむね 5 歳	9

はじめに

子どもを保育することは、子どもの命を預かることと同様で、極めて責任の重い仕事であると同時に、把握しておかなければならない事項、マニュアルが数多くあります。

保護者とともに未来を担う子どもたちの成長を育む、非常にやりがいのある仕事です。

ペアレントスケッターでは、安全・安心な保育の実現を目指しており、その実現には、認可外保育施設、保育者の皆様の協力が不可欠であります。

このたび、保育をするにあたり、必要なことや、注意しなければならないことをまとめた各保育事項・各保育マニュアルを作成いたしました。本マニュアルは、日々の保育のあり方を中心に各項目に特化したものとなっております。未来を担う子どもたちが笑顔で健やかに過ごせるよう、本マニュアルをご活用いただき、安全・安心な保育の実現にご協力をお願いいたします。

ペアレントスケッター

保育にあたっての基本姿勢に関する事項を定めた業務マニュアル

保育を始める前に

保育施設は、保育所保育指針に基づいた保育をすることが求められます。(ベビーシッターも同様)保育所保育指針をいつでも確認できるよう、施設内に置いておきましょう。1度目を通したら終わりではなく、何度も目を通し、内容をしっかり把握して保育することが大切です。

ベビーシッターは保護者とその子どものニーズに合わせた柔軟な対応が必要です。

保育指針にもあるように、保護者に寄り添うサポートに徹し、十分なコミュニケーションをはかり、安心・安全に保育を行いましょう。

1 保育の計画と評価

保護者からの要望や、保育指針の必要な保育目標のもと「保育の計画」を立てそれに基づく保育を展開し、日々の保育を振り返り評価し、次回の保育に反映させることを繰り返すことで保育の質の向上につながるとされています。

施設ごとに独自の目標を立て、子ども一人一人の成長・発達を十分に踏まえ、きめ細かく相互応答的に関わるのが重要です。保護者が安心して預けられ、子どもたちが楽しく過ごすことが出来る安全・安心な保育を実施しましょう。

自己評価

自己評価とは、自身が行なった保育の過程・実践を振り返り、反省・評価をすることです。保育施設として、保育者個人として自己を評価することが、保育の質の向上につながります。自己評価を実施し、保育の質の向上を図りましょう。

2 保育の記録報告書の作成

次の保育につなげるために、自身の保育が適切にすすめられているかどうか、保育の経過や結果を記録しましょう。記録することは、実践したことを自分の中で客観化する第一歩です。

保育終了時には当日の流れを報告書に記載し提出しましょう。

3 保育の内容

保育は、子どもの発達過程を考慮しながら実施することが必要です。保育所保育指針に示された発達過程は(1)のとおりです。各年齢の発達過程を理解した上で保育にあたります。

また、年齢に応じた一日の保育の流れや各場面の注意点等を(2)に示しました。今後の保育の参考にしてください。

(1)子どもの発達過程

子どもの発達過程は、大きく分けて以下のとおりに区分されます。この基準は、子どもの均一的な発達の基準ではなく、一人一人の発達過程としてとらえるべきものです。保育を実施するにあたっては、子ども自身の力を十分に認め一人一人の成長発達を理解した上で適切な援助及び環境構成を行う事が重要です。それぞれの年齢における発達の目安として理解しましょう。

1 おおむね 6 か月未満

- 首がすわり、寝返り、腹ばいができるようになる。
- 手足の活動が活発になり、手に触れた物を握ったり、前の方にある物をつかもうとする。
- 快、不快を笑ったり泣いたりして、表情の変化や体の動きで表現できるようになる。
- 身近な大人にあやしてもらおうと、顔をじっと見たり声を出して笑ったりする。 ●機嫌の良いときに、「あー」「うー」といった喃語を発する。

援助のポイント

・ 一日を安全に過ごすために登園時は、「検温・睡眠時間・食事(ミルク)・体調」など家庭での様子を

確認する事が大切です。

・ 月齢によって生活リズムは異なります。排泄や授乳の間隔、眠るタイミングや睡眠時間も違います。

個別に対応できるようにしましょう。

・ 授乳は、ゆったりとした気持ちで目を合わせながら、一人一人の飲む速度に合わせて、落ち着いて飲

めるようにしましょう。

・ 大人との信頼関係を築いていく大切な時期です。泣いたら抱っこしたり、視線を合わせたり、微笑みか

けたり、語りかけたりする等ふれあいを十分にとりながら、心身共に快適な状態がつかれるようにしましょう。

2 おおむね 6 か月から 1 歳 3 か月未満

- 座る、はう、立つ、両手にもものを持つ、引っ張るなどができる。
- 手に取ったものを舐めたり、口の中に入れてしまう。
- あやしてもらおうと喜んだり、大人とのやりとりが盛んになる。
- 後追いや、人見知りをするようになる。

- 自分の思いを、指さしや身ぶりで伝えようとする。

- 離乳食から徐々に幼児食に移行する。

援助のポイント

- ・はじめは、おすわりやつかまり立ちなどがしっかりできません。転倒に注意しましょう。

- ・直径 39 ミリ奥行き 51 ミリ以内のものは、飲み込んで窒息する可能性があるので、手の届くところには置かないようにしましょう。トイレットペーパーの芯の直径(約 39 ミリ)がめやすになります。

3 おおむね 1 歳 3 か月から 2 歳未満

- 歩く、押す、つまむ、めくるなど運動機能が発達する。

- 指差しや片言で思いを伝えたり、二語文を話し始めたりする。

- 上手に話すことができるまでは、かんしゃくをおこすことがある。

- 大人の言うことが分かるようになる。

- 離乳が完了し、スプーンやフォークを使って食べる。

援助のポイント 活発に動くようになり危険がいっぱいです。ひきだし、コンセント、家具の隙間、ドア・扉などの危険箇所を チェックし、安全対策(コーナークッション、コンセントカバー、ゲート、指はさみ防止など)をしましょう。

4 おおむね 2 歳

- 歩く、走る、跳ぶなどの動きが活発になる。

- 指先の機能が発達して、食事、衣類の着脱など自分でしようとする。

- トイレで排泄できるようになる。

- 言葉で自分の思いを伝えようとする。

- 自己主張が強くなりトラブルになることがある。

- 大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しめるようになる。

援助のポイント 「いや」「だめ」は自立へのメッセージです。気持ちを大切に受け止めましょう。

-5-

5 おおむね 3 歳

●食事、排泄、衣類の着脱など自分でできるようになると共に大人に手助けされることを嫌がる時期でもある。

●話し言葉の基礎ができて「なんで」、「どうして」と質問するなど、さまざまなことに興味を持つようになる。

●走る、跳ぶ、投げる、蹴るなど体の動きが巧みになる。

援助のポイント 友だちとの関わりは多くなりますが、お互い主張しあってトラブルになることもあります。両方の思いを聞いて代わりに言葉にして、橋渡しをしましょう。

6 おおむね 4 歳

●手洗いやうがい、衣服の調節など、生活に必要なことが自分でできるようになる。

●危険な場所や遊具の安全な使い方がわかる。

●ルールの大切さがわかり、交代や順番待ちができるようになる。

●仲間とのつながりが強くなるが、競争心からトラブルが起こる事もある。

援助のポイント 友だちとのぶつかり合いを経験しながら、少しずつ自分の気持ちを抑えられるようになり、がまんができるようになります。集団での活動を大事にしましょう。

7 おおむね 5 歳

- 運動機能はますます伸び、喜んで運動遊びをしたり、友達と一緒に活発に遊んだりする。
- 考えや思いを相手にわかるように話すことができる。
- 自分なりに考えて判断したり、批判したり、ケンカを自分たちで解決しようとする。
- 身近にある文字や数字に関心を持つようになる。

援助のポイント

社会生活に必要な力を身につけていく時期です。共通の目的に向かって協力しあい、一緒に作り上げる機会を作りましょう。